

令和 7 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	72	学校名	県立下館第二高等学校				課程	全日制		学校長名	池田 恭彦							
教頭名	谷島 賢一								事務長名	小山 太								
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	5	実習教諭	実習講師	実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	60
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス数								
		男	女	男	女	男	女	男	女									
	普通科	99	142	95	138	86	148	280	428	18								

2 目指す学校像

スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、体力と気力に満ち情操豊かな人間力を備え、地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、体力と気力に満ち情操豊かな人間力を備え、地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○目標の連鎖に留意して学習活動、特別活動、道德教育、人権教育等を行うことにより、心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人材を育成する。 ○新学習指導要領の着実な実施を通じて、確かな学力を身につけ、社会の変化に対応して、他者と協働して課題解決にあたることのできる資質・能力を育成する。 ○「総合的な探究の時間」を活用し、地域と連携した探究型学習の充実を図る。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ○地域の課題に興味・関心を持ち、地域社会との協働に意欲のある生徒 ○生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力の定着度や学習意欲が不十分な生徒が増加傾向にあり、学力や学習意欲に差が見られる。また、学力面で伸びる力を秘めていながら、学習に対して自主性や積極性に欠ける生徒が少なくない。	学習に対する主体性・積極性の育成、学習意欲の維持向上のため、生徒個々の実態に応じて授業の工夫・改善を重ね、ICT活用や授業方法について教員相互の学びや研修・研究を進める。また、「総合的な探究の時間」を充実させ、生徒の主体性を育み深い学びを図る。

特別活動	<p>生徒会関係の行事（文化祭・球技会）について、可能な限り生徒主体の企画・運営を目指しているものの、リーダーとして活躍できる生徒が限られている。</p> <p>部活動については、部員数が減少している部が増えているとともに、専門性を生かした顧問の配置が難しい状況になっていることから、部の精選について検討が必要になっている。</p>	<p>行事・部活動ともに生徒の自主的、自発的な取組を支援するための創意工夫とともに、リーダーの育成を図る。</p> <p>部活動を活発にすることで、活力ある教育活動の推進を図る。専門家のいない部活動には、外部からの部活動指導員を活用するなど、活動を充実させる。また、「キャリアパスポート」による活動の記録を蓄積し、キャリア教育に資する。</p>
進路指導	<p>生徒の進路希望が多方面に分かれており、6～7割の生徒が大学・短大進学を希望している。近年入試形態も多様化し、年内入試を希望する生徒が増えている。ほぼ進学希望を達成しているが、国立大学進学を第一志望とする者に対する達成率は高くない。</p>	<p>キャリア教育の充実を図り、組織的・計画的な進路指導を通して、生徒の進路実現を推進する。学び直しや復習にも力を入れ、進路実現のための土台作りをする。年内入試（総合型選抜や学校推薦型選抜）による早期進路決定者に対する学習意欲を喚起する。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの不適切な利用が見られる。 ・登下校時、自転車の交通ルールを守れない生徒がいる。 ・特別支援教育に対する教職員の理解が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯・スマホ安全教育を進め、情報モラルをより高める必要がある。 ・自転車通学者のヘルメット着用も含め、さらなる交通安全教育の充実を図る必要がある。 ・特別支援教育の充実が課題である。
第1学年	<p>進路に関しての知識が不足している生徒が多く見られる。保護者についても同様の傾向である。また、学習意欲や進路に関する意識等、個人差が大きく、主体的に物事に取り組める生徒が少ない。</p>	<p>進路行事等によって、進路目標の確立を進め学習意欲の向上を図る。また、部活動や学校行事を積極的に体験させることで主体的に物事に取り組む姿勢を育む。また、保護者についても進路関係の情報発信を行うことで意識を喚起する。</p>
第2学年	<p>大部分の生徒が大学進学を希望しており、進路希望実現のためには更なる成績の向上を要する。積極的に進路研究をするなど、自己の判断に基づいて主体的に行動しようとする意識が必要である。</p>	<p>基礎学力の定着と進路指導の充実を図る。部活動、学校行事に主体的に参加することにより、進路目標達成のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。</p>
第3学年	<p>多くの生徒が大学進学を希望しているものの、進路実現のためには学力向上が不可欠であり、そのためにも家庭学習等の自学自習時間の確保が必要となる。生徒の主体性、積極性はあるものの、必要な場面（行事や部活動）で十分に発揮できていないのが実状である。</p>	<p>自学自習が行える環境づくりや雰囲気づくりが必要となるので、自習室の整備を行うとともに、個々の学習時間を教員側が把握できるようにする。また、早期に進路目標を明確にさせ、そのために必要な力について個別面談をとおして把握し、自ら学習の見通しを立てられるようにする。</p>
働き方改革	<p>令和6年度の時間外在校等時間について月平均時間 27 時間 42 分、月平均 45 時間超過者割合 18.1%、月平均 80 時間超過者割合 1.9%という結果であった。</p>	<p>学校行事の精選や業務の効率化を図り、超過勤務時間の減少を目指す。また、部活動の在り方を見直し、運営方針を基本とした業務の遂行に取り組む。</p>

5 中期的目標

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、積極的なICTの活用により学力の向上を目指す。
2. より高度な学問探究を目指す四年制大学進学を推進し、国公立大学合格者数 15 名、難関私立大学合格者数 15 名を目標に、進路指導の充実を図る。
3. 道徳教育、人権教育を充実し、マナーや絆、助け合うことの大切さを身につけ、よりよい人間関係を育む。
4. 「総合的な探究の時間」を充実させ、地域や社会における課題を見つけ出し、原因分析や解決への方策を探究することで、地域に貢献できる人財を育成する。
5. 将来の職業として教師を目指す若者が増えるよう、これまでの学校文化を見直し、働き方改革を推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高揚、学力向上に向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的なICTの活用を含めた授業を推進し、主体的対話的で深い学びの実現と学力向上に向けた授業改善に取り組む。ICT活用の工夫をしている教員の割合70%以上を目指す。 ②公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、教員の資質向上を図る。生徒による授業評価の観点のうち「授業満足度」3.5以上を目指す。 ③「総合的な探究の時間」を充実させ、教科横断的な学習を通して、地域に貢献できる人材育成を図る。 ④生徒の実態に応じた選択授業などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①好ましい人間関係を基礎にした望ましい集団の実現に努める。 ②教育相談、教育情報交換会等を通して共感的理解をもって生徒理解を深める。 ③交通安全教育の推進と事故防止に努める。 ④家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育・進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリアパスポート等の活用により、キャリア教育を充実し、社会に貢献できる高度な人材育成を目指して大学進学を推進する。 ②3年間を見据えた計画的な進路行事を実施することを通して、望ましい職業観・勤労観を育成する。また、スタディサポートや模試を活用し学び直しや復習をすることで、学力の定着に努め生徒の希望進路実現を図る。 ③進路情報発信に努め、生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の充実と特別活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。 ②生徒会活動や学校行事、部活動を通して、社会性やコミュニケーション力を高める。 ③筑西市と連携を深め、地域の実態や課題を把握し、地域貢献活動を行いながら豊かな情操を養い、活力ある学校づくりに役立てる。 ④部活動加入率70%以上を維持することを目標とする。
<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。 ②“下館二高3Aプラン (Assess、Act、Achieve) 自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。 ②学校安全委員会を中心に、安全・美化点検を定期的実施し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校行事の精選、効率的な運営を図る。 ②ICTを活用して業務の効率化を図るとともに、教職員の協働性を高め、業務の平準化を図る。 ③部活動運営方針を遵守するとともに、部活動数・顧問数など運営の見直しを図る。